



東京文化発信  
プロジェクト

TERATOTERA祭り@西荻窪

# TEMPO de ART 2013 DOCUMENT

テンポ・デ・アート2013 ドキュメント

TERATOTERA祭り@2013西荻窪  
**TEMPO de ART**  
2013.10.20<sub>sun</sub> - 11.17<sub>sun</sub>



# 目次

はじめに	1
実施概要	2
実施店舗MAP	3
参加アーティスト×店舗	
秋山由希 × 常盤屋牛肉店	4
秋山由希 × 旅の本屋のまど	5
池田拓馬 × galerie non	6
岩崎が × VIVACEカイロプラクティック	7
榎田愛 × N302	8
関川航平 × FALL	9
津田翔平 × nombre	10
山崎悠人 × STORE	11
苦肉 × ハンサム食堂	12
苦肉 × David&Jonathan	13
福井拓洋 × Fuji Cleaning	14
福井拓洋 × Chill Mie Cafe	15
渡辺俊介 × OLUOLU MAHANA	16
関連イベント	
プレゼンテーション会	17
公開講評会、ガイドツアー	18,19
インタビュー FALL 三品輝起×関川航平	20,21
考察 続けるということーTEMPO de ARTの2年目	22,23
おわりに	24

## はじめに

「TERATOTERA(テラトテラ)祭り2013@西荻窪TEMPO de ART 2013」は、JR中央線西荻窪駅周辺の13の“店舗”を舞台にした若手アーティストによる展覧会です。JR中央線の高円寺～国分寺区間をメインに展開する地域密着型アートプロジェクト「TERATOTERA」の一環として、2013年10月20日(日)から11月17日(日)にかけて開催されました。企画・運営は「TERAKKO(テラッコ)」と呼ばれるボランティアスタッフが担いました。

はじめは2012年10月。「既に独自のカラーを持つ場所にアートを持ち込んだら、どんな化学反応が起こるか試したい。」そんなTERAKKOの一言から、若手アーティスト8組による「西荻映像祭 -TEMPO de ART(テンポデアート)-」が12日間開催されました。個性的な店舗に様々な映像表現が出現し、いつもと違う“TEMPO”がまちの中に吹き込まれました。

2013年は、今まちで発信すべきアートを探るべく、ジャンルを問わない公募展を行なうことにしました。30歳以下のアーティストに参加を呼びかけ、応募したアーティストの互選によって参加者を決定しました。作品も映像に限定することなく、幅広い表現が提案されました。

アーティストの思い描く作品は、こだわりの商品が並ぶ店舗でどのように展開できるのか。アーティスト、店舗の双方と何度も対話を重ねながら開催までの歩を進めました。店舗の営業中に展示可能なプランを話し合い、会期中の機材のスイッチのオン・オフの分担を決めるなど、挙げれば切りがないほど細やかな共同作業の連続でした。改めて振り返ってみると、アートプロジェクトはそうした積み重ねで成り立っているのだと、痛感しています。

その結果、会期中には、作品の展示によって雑貨店の窓には水蒸気が発生し、洋服店には観葉植物が大量に繁殖するなど、ビジネスとアートの出会いによって、西荻窪のまちはいつもと少しだけ違う表情を見せました。

TERATOTERA祭り2013は、「ゆだねる」「繋がりをもつ」という意味を込めて“commit”をメインテーマとして掲げました。「TEMPO de ART 2013」が、このまちを往来する人たちと、表現というかたちで社会と向き合うアーティストの作品とをどれだけ繋ぐことが出来たのか。その問いとは今後も向き合い続けていくことでしょう。アートプロジェクトの可能性は、繋がりを持ち、互いを許し支え合うような関係を築きながら生まれる、化学反応の中にあるのかもしれませんが。今後も、そうした可能性を信じて、まちと人とアートとを結ぶプロジェクトを続けていきたいと思えます。

TERAKKO 高村瑞世



## 実施概要

会期：平成25年10月20日(日) - 11月17日(日) ※ 休日：月曜、各店舗の定休日

時間：各店舗の営業時間による

常盤屋牛肉店、OLUOLU MAHANAは営業時間外に展示。

詳細はP.4(秋山由希 × 常盤屋牛肉店)、P.16(渡辺俊介 × OLUOLU MAHANA)をご覧ください。

主催：東京都、東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)、  
一般社団法人Ongoing

後援：杉並区

助成：杉並区文化芸術活動助成事業

会場：OLUOLU MAHANA、STORE、Chill Mie Cafe、galerie non、旅の本屋のまど、David&Jonathan、  
常盤屋牛肉店、N302、nombre、ハンサム食堂、VIVACEカイロプラクティック、FALL、Fuji Cleaning

## 全体スケジュール

4月～5月	店舗への参加交渉
6月20日(木)	参加アーティスト公募開始
7月13日(土)	公募締切
7月27日(土)、28日(日)	応募アーティストによるプレゼンテーション会
8月7日(水)	参加アーティスト発表(TERATOTERAサイトにて)
8月10日(土)、11日(日)	店舗とアーティストの顔合わせ
8月中旬～9月	店舗へのアーティスト提案プランの交渉
10月15(火)～20日(日)	搬入
10月20日(日)	会期開始
10月26日(土)	公開講評会① ゲスト：高橋瑞木 詳細はP.18へ 榎田愛によるイベント「テアトル・オブティーク上映会」 詳細はP.8へ
10月27日(日)	岩崎がによるイベント「ゴリンのショー」 詳細はP.7へ
11月3日(日)	公開講評会② ゲスト：浦野むつみ、藤城里香 詳細はP.19へ 榎田愛によるイベント「テアトル・オブティーク上映会」 詳細はP.8へ
11月10日(日)、16日(土)	完全攻略ガイドツアー 詳細はP.19へ
11月17日(日)	会期終了

## TERATOTERA STAFF

### TEMPO de ART 2013 事務局

全体の把握・管理、店舗の参加交渉、企画書作成、店舗担当チームフォロー、スケジュール進行管理

高村瑞世 宮久実那 吉田絵美

### 店舗担当

アーティストの提出プランの各店舗への交渉、

搬入・搬出のスケジュール管理、作家の写真、プロフィール収集、作品制作補助

秋山友紀 北川麻衣子 遠山尚江(常盤屋牛肉店、旅の本屋のまど、nombre)	飯島彩子 森聡史(N302、STORE、VIVACEカイロプラクティック)
佐藤佳那 高田圭 千葉佐奈子(Chill Mie Cafe、Fuji Cleaning)	大山香苗 吉田絵美(David&Jonathan、ハンサム食堂)
西岡一正 脇屋佐起子(OLUOLU MAHANA、galerie non)	宮久実那(FALL)

### TERATOTERAディレクター・事務局

小川希(TERATOTERAチーフディレクター) 國時誠(TERATOTERAディレクター) 小澤恭子(TERATOTERA事務局長)

### ■ TERATOTERAとは？

TERATOTERAは、東京都と東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)と、吉祥寺に拠点を置いて現在進行形の芸術をフィーチャーしている一般社団法人Ongoingが協働して、平成21年度よりJR中央線高円寺駅～吉祥寺～国分寺駅区間をメインとした東京・杉並及び武蔵野、多摩地域を舞台に展開する、地域密着型アートプロジェクトおよびその発信機関の総称です。

### ■ 東京アートポイント計画とは？

「東京アートポイント計画」は、東京の様々な人・まち・活動をアートで結ぶことで、東京の多様な魅力を地域・市民の参画により創造・発信することを目指し、「東京文化発信プロジェクト」の一環として東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団が展開している事業です。 www.bh-project.jp



# 実施店舗MAP

善福寺川

STORE 8

12 Chill Mie Cafe

● サンクス

3 galerie non

11 Fuji Cleaning

2 旅の本屋のまど

● にしわぎ 歯科

6 FALL

桃井三小西

● モスバーガー

● カラオケ館

● ローソン

● 喜久屋

● セブンイレブン

● 交番

● 北口

西荻窪駅前

JR 西荻窪駅

南口

西荻窪駅入り口

13 OLUOLU MAHANA

9 ハンサム 食堂

● こけし屋 本館

● みずほ銀行

● こけし屋別館

1 常盤屋 牛肉店

David & Jonathan

7 nombre

● ファミリーマート

西荻南二丁目

● デイリー ヤマザキ

西荻窪駅東

● 杉並西荻南郵便局

VIVACE  
カイロブラクティック

4

● セブン  
イレブン

N3025





## 参加アーティスト × 店舗



### 《 Nature, Culture, Architecture 》

2012 10min11sec 映像インスタレーション

映像上映: 常盤屋牛肉店の営業終了後、火～土 21:00 - 23:00

協力: ヴィレッジ ヴァンガード ダイナー 西荻

## 秋山由希 × 常盤屋牛肉店

西荻窪駅前の商店街に位置する常盤屋牛肉店。営業終了後、シャッターに秋山の映像作品《Nature, Culture, Architecture》が映し出された。映像の中では、様々な国籍と思われる男女が、互いの前を通り過ぎたり、輪になって向かい合い手や膝をたいたりしている。現代社会の人と人之間にある言語や空気感を探る秋山の作品は、商店街を往来する人や立ち止まった人の影をも作品の一部とし、映像の中の人々と鑑賞者との間に、新たな関係性や出会いを生み出した。

### 秋山由希 | Yuki Akiyama

埼玉県で生まれ育ち、15歳で単身渡豪、18歳から渡米し映像芸術を学ぶ。2012年マサチューセッツ美術大学を首席で卒業。主に現代社会の人と人之間を主題に、様々なサブカルチャーを学術的に捉え、視覚的な構成を組み立てていく映像作品を制作。作品は日本、アメリカ、スペイン、エジプトの映像祭で上映されている。 [yukimokoa.wix.com/index](http://yukimokoa.wix.com/index)

MAP

#### ① 常盤屋牛肉店

西荻窪駅南口を出てすぐの仲通商店街に位置する精肉店。20年以上土地の人々に親しまれている店舗で、お客さんの年齢層も幅広い。昼夜を問わず人通りが多く、2013年度の展示では閉店後のシャッターへのプロジェクター投影に足を止める人も多くいた。

杉並区西荻南3-9-5

営業時間: 10:00-21:00 | 日・祝日 定休





### 《 voiceless march 》

2013 about 5min×6  
テレビモニター、DVDプレーヤー上映、i-Podでの再生

### 《 Voiceless 》

2011 30min47sec  
テレビモニター上映

## 秋山由希 × 旅の本屋のまど

旅に関連する本を専門に扱う、旅の本屋のまど。秋山は、アルプス山脈を走る電車、スクーターで街をすりぬける男女など、自身の映像作品から「移動」に関するシーンだけを切り取り、店内に点在するモニターで上映した。通常上映されていた映像は、作品の一部がループされたものだが、週に1度だけ、約30分のドキュメンタリー映像《Voiceless》が全編上映された。この作品は、日本に暮らす21～22歳の若者たちとのカジュアルな会話を中心に構成され、18歳から工場で働く者、やりたいことも無く就職する者などの言葉から、現代の若者の「移行期間」の不安を浮き彫りにするようなものであった。

### 秋山由希 | Yuki Akiyama

埼玉県で生まれ育ち、15歳で単身渡豪、18歳から渡米し映像芸術を学ぶ。2012年マサチューセッツ美術大学を首席で卒業。主に現代社会の人と人との間を主題に、様々なサブカルチャーを学術的に捉え、視覚的な構成を組み立てていく映像作品を制作。作品は日本、アメリカ、スペイン、エジプトの映像祭で上映されている。 [yukimokoa.wix.com/index](http://yukimokoa.wix.com/index)

### MAP ②旅の本屋のまど

ガイドブックや地図、旅行記に限らず、文学や音楽、映画、思想、料理等さまざまなジャンルから「旅」に関連する本を取り揃えている本屋。西荻窪駅北口から徒歩5分ほどのところにあるこの店舗には、日本全国、世界各国の旅の本がずらりと並び、一步入るだけで「旅」への想像をかきたてられる。

杉並区西荻北3-12-10 司ビル1F  
12:00-22:00 | 水 定休 [www.nomad-books.co.jp](http://www.nomad-books.co.jp)





01-03 《 DOT 》

2013 ミクストメディア

04 《 Over There (Root 6) 》

2011 5min | 1sec

05 《 Over There 》

2008-2010 各1分

06 《 Empty Gift 》

2013 ミクストメディア

## 池田拓馬 × galerie non

無機質な光の羅列とも言える夜景をつなぎ合わせることで、胎内をめぐる血流や水面のきらめきなどの有機的な事象を想起させ、街の胎動を感じさせる映像作品を作り続けてきた池田拓馬。今回の展示では、オーナーのこだわりが光るセレクトの洋服や雑貨などの商品の隙間に、まるで宝探しに似るようなかのように3作品を配した。また、今回の意欲作である新作『dot』では店舗前の往来を撮影し、720本の光ファイバーを経由して約3千分の1まで画素を落として見せることで、これまでの手法に逆行し風景を光の点へ変換する実験的な作品を提示してみた。

### 池田拓馬 | Takuma Ikeda

1983年神奈川県生まれ。2009年東京藝術大学大学院修了。「今いるここはどこなのか」という問いをもとに扉を用いたインスタレーション、夜景をコラージュした映像作品を制作。近年の展覧会に「群馬青年ビエンナーレ2012」入選、「きのうあったことについて」、「TERATOTERA 祭り」、「入る旅人出る旅人」など。  
takumaikeda.com

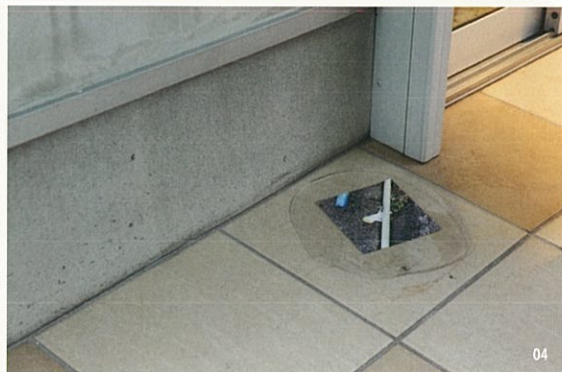
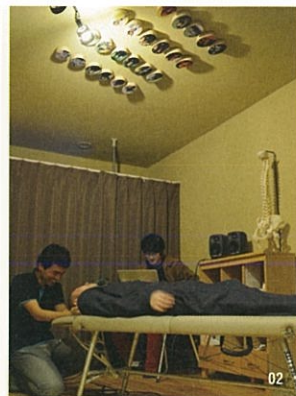
MAP

### ③ galerie non

衣・食・住・芸をコンセプトに、オリジナルブランドの衣服や海外からセレクトした雑貨、アクセサリなどを販売している。作家オリジナルの食器や作品の展示販売なども店内で開催している。西荻窪駅北口から徒歩約10分。

杉並区西荻北4-3-4 美光武番館101

営業時間: 13:00-19:00 | 月 定休 batta.co.jp



#### 01 《 てんけい 》

2011- 印画紙、木

#### 02 《 ゴリンのショー 》

10月27日(日) 19:00-21:00 パフォーマンス  
出演：渡邊剛、岩崎が、Olegg Lermontov

#### 03 《 毛深い女・男 》

2011 印画紙、無酸性紙

#### 04 《 "Hello, world!" 》

2013 印画紙、エゴキシ樹脂

## 岩崎が × VIVACEカイロプラクティック

店舗入り口の外側には新作『"Hello, world!"』を展示。床のタイルに同化するよう展示された写真には遺失物手袋が写っている。店内には、施術ベッドの上の天井にキリストに似た風貌の人々を写真に収めた『てんけい』を展示。施術のために仰向けになると初めて作品と出会うことになる。そして、トイレに入った人だけが出会うセルフポートレート『毛深い女・男』。岩崎は今回、鑑賞者と作品が偶然出合うこと、構えていない状態で作品を鑑賞してもらうこと、作品の意味は受け手側に委ねることをテーマとしていた。会期中には、店主の協力のもと、カイロプラクティック施術の際に鳴る骨の音を使った音楽ライブも行われた。

### 岩崎が | Ga Iwasaki

1984年青森県弘前市生まれ

脚本のようなものを、毎日読んでいる気がする。  
自分の価値判断さえ、振り付けの確認にすら思える。

私は、あなたの「神話」が聞きたい。

MAP

#### ④ VIVACEカイロプラクティック

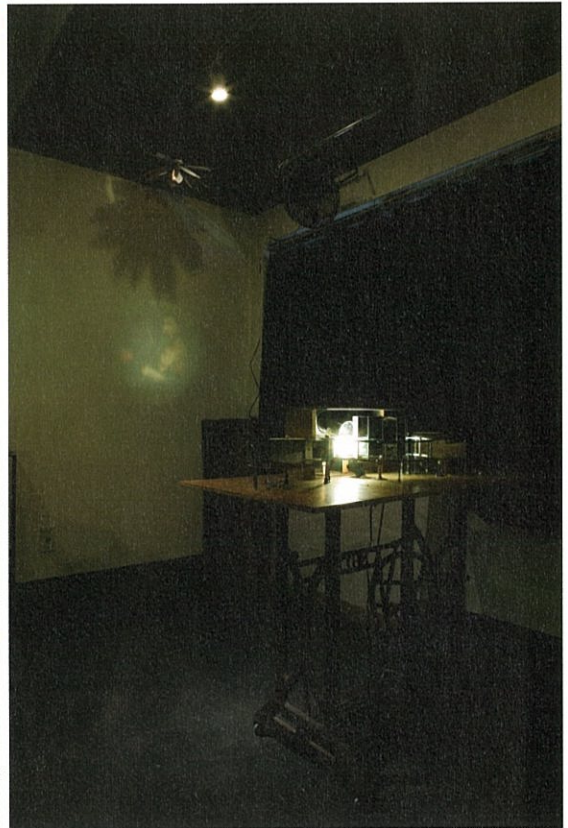
個室の整体カイロプラクティック院。優しく落ち着いたインテリアで、妊婦や子ども連れの方も気軽に来院できる雰囲気。入り口前に置かれた、アーティストが手がけた看板が目印。西荻窪駅南口から徒歩約10分。

杉並区西荻南 3-1-1

営業時間：平日 10:00-20:00 頃、土日祝 10:00-18:00 頃 | 火 定休

vivacechiro.net





## 榎田愛 × N302

作家の実家で、曾祖父の時代に建てられた洋風家屋の取り壊しを機に、記憶を記録する作品を着想した。そのための装置として、19世紀末に発明された動画投影装置「テアトル・オブティーク」を、古い足踏みミシンを使って再現した。投影するのは、家族のアルバムに残る写真から作成した紙フィルムによる映像。曾祖父母にまでさかのぼる4世代の記憶を4章立ての映像として作品化した。展示では、テアトル・オブティークとともに、家族アルバムの写真や紙フィルム、作曲譜面などをインスタレーション的に配置した。作品のノスタルジーな雰囲気や古いビルの一室をリノベーションしアンティークで空間を構成したN302の店内にマッチしていた。映像に弦楽生演奏を合わせた数回のパフォーマンスも成功を収めた。

### 《 本町の家のためのテアトル・オブティーク 》

2011- ミクストメディア

### 《 テアトル・オブティーク上映会 》

榎田愛の作曲した楽曲を弦楽四重奏で演奏。

10/26(土) 17:30-17:45、18:30-18:45

11/3(日) 17:30-17:45、18:30-18:45

出演：榎田愛、安藤梨乃(Vl.)、久保田綾香(Vl.)、片山瑠央(Vl.)、石橋啓子(Vla./Va.)、入江晴美(Vc.)、北村 美咲[くろひげ](語り)

### 榎田愛 | Ai Umeda

1988年生まれ。2012年武蔵野美術大学空間演出デザイン学科卒業。

幼少期のピアノ・バレエ・造形教室での体験から、それらを併せて何かできないかという気持ちが芽生え、大学で舞台美術を学ぶ。エンターテインメントに関わる様々なメディア・分野をまたいだ総合的表現で、日常に潜む異世界感や非現実感の中にある物語を切り取っていく。

### MAP 5 N302

店舗、住宅リノベーション等の空間設計デザインを行うrevel-design、オーダーメイクSHOPのHAMPERusedrawingが運営するレンタルスペースギャラリーN302。西荻窪駅南口から徒歩5分の小さなビルの3F。

杉並区西荻南2-20-8 山田ビル302

営業時間：12:00-20:00

revel-design.com





### 《 私たち 》

2013 小説(14.2×10.5mm)40枚 画材:インク

## 関川航平 × FALL

入り口に入ってすぐ左側に設置された台と壁面に、古びた小説の1ページを切り取ったものが何枚も並んでいる。そこには1枚1枚幾何学的な図形が描かれており、よく見るとそれは文章の中にある「私」という文字を塗りつぶし、線で繋いだものだとなる。店内にも、それらはアンティークや陶器、ポストカード等の商品に混じって点在している。作品を置く位置は、毎日商品の配置を少しずつ変える店主の手に委ねられていた。個性ある雑貨たちが並ぶ風景に「私」を消して溶け込みながら、偶然によって生まれた形を主張する作品となった。

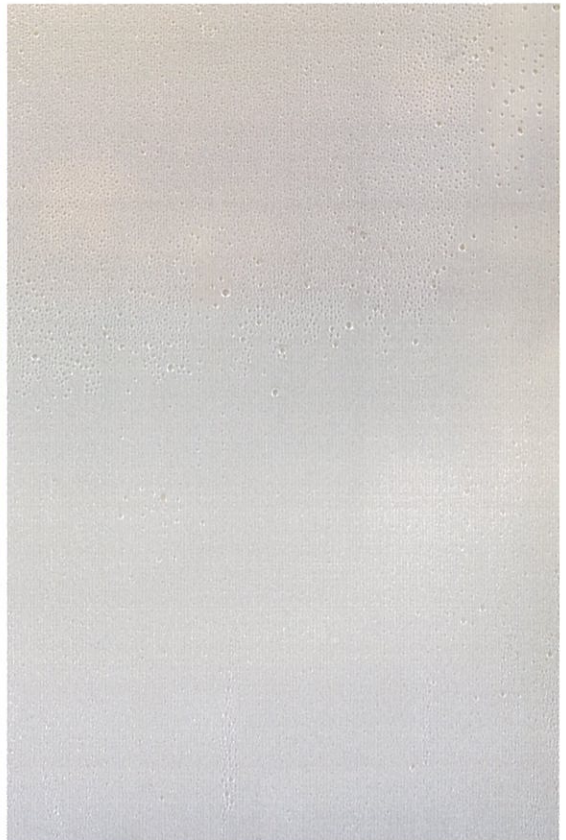
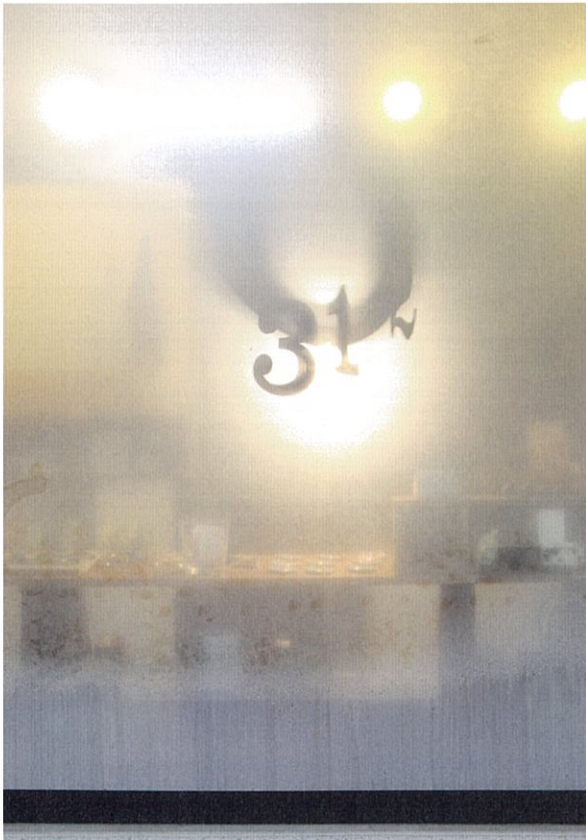
### 関川航平 | Kohei Sekigawa

1990年宮城県生まれ。2013年筑波大学芸術専門学群特別カリキュラム版画コース卒業。放送事故のような「壊れた」状態や、フィクションとノンフィクションの間の緊張感に、制作のテーマを見出している。インスタレーションやパフォーマンスなどジャンルを問わず制作。  
ksekigawa0528.wix.com/sekigawa-works

### MAP ⑥ FALL

お洒落なたたずまいの路地裏雑貨店。作家ものの陶器やアクセサリ、近所の音楽家たちのCD、書籍やアンティークなどを扱うお店。1週間毎のペースで、アーティスト作品の展示・販売をしている。

杉並区西荻北3-18-10-#102  
営業時間:12:00-20:00 | 月・火 定休 fall-gallery.com



## 《零 -rei-》

2013 水、窓ガラス、ビニール

## 津田翔平 × nombre

数字をモチーフとしたオリジナル文房具や雑貨を扱うnombre。津田は、数字のゼロ(0)が漢字表記では、「無(まったくない)」ではなく「零(わずかにある)」となることをヒントに、店舗の顔である大きな窓に「ゼロ(0)」を表現した。店舗がマンションの屋内にあるため雨が当たることのない窓ガラス。そこに「雨」が「令(お)ちる」現象を表現し、「零」という文字の成り立ちを暗示することで、いつもと少しだけ違う風景を提示した。店内からの灯りに照らされて、ぼんやりと曇った窓に数字のシルエットが浮かび上がる、幻想的な作品となった。

### 津田翔平 | Shohei Tsuda

1986年東京都生まれ。実験建築家 / Noise Artist。新たな空間認識の可能性を探る実験や、様々なノイズを題材とした作品を制作。インスタレーション・立体・平面・映像・音楽・デザイン等、作品の媒体は問わず幅広く活動。ノイズ専門レーベルUNNOISELESS主宰。

shoheitsuda.net unnoiseless.net

### MAP ⑦ nombre

数字をモチーフにした文房具や、布小物等を扱うnombre。書籍「水鏡とつくる紙文具」や、ベネッセアートサイト直島のオリジナルグッズなどを手がける文房具ブランド「水鏡」と、オリジナルバッグやペンケース等の布ものブランド「phrungnil」のアトリエ・ショールーム。

杉並区西荻南3-7-14 アミーハウス1階奥  
営業時間:13:00-18:00 | 月・火・水・日 定休 nombre.jp





## 《 Plants 》

2013 木

## 山崎悠人 × STORE

店の前を通ると、ガラス越しに見える店内の様子が、いつもとは明らかに異なっている。たくさんの植物が溢れるように配置されていることが、外からも見て取れる。店内に入ると、右手には外からも見えていた数多くの観葉植物がすぐに目に留まる。そして他にも店内の棚の上など、あちこちに観葉植物が点在。しかし近づいてよく見ると、その観葉植物の一つ一つが木製の彫刻であることがわかる。個人的でカラフルな衣服を扱う店内が、作家の無意識から生み出された膨大な量の彫刻作品によって、独特の生命感溢れる空間に変化した。

### 山崎悠人 | Yuto Yamasaki

1983年福岡県生まれ。2007年武蔵野美術大学彫刻学科卒業。2009年武蔵野美術大学大学院美術専攻彫刻コース修了。無意識の中から作品を生み出すべく、大小様々な観葉植物の木彫を大量に制作する。  
yamasakiyuto.tumblr.com

### MAP 8 STORE

オリジナルブランドの商品を扱う洋服店。全て色の組み合わせが異なる！点もの《ポーターシリーズ》のワンピースやTシャツ、上下の色の組み合わせを自由にカスタム出来る《ルビントーシャツ》などを展開。ミュージアムショップでの取り扱いを始め、全国のギャラリーやデパートで展示販売会を開催している。

杉並区西荻北5-7-19  
営業時間：12:00-19:00 | 月・火 定休 storestore.net





### 《 偶然の偶像 》

2013 スタイロホーム、樹脂、玩具、アクリルガッシュ (立体)  
10min (映像)

## 苦肉 × ハンサム食堂

ハンサム食堂2号店の2階で、数点の作品を展示。2階へ上がってまず目につくのは、天井中央から吊るされている約1m幅の彫刻作品『偶然の偶像』。ピンクを基調とした、謎めいた生物のような偶像には、玩具の一部を型取り複製したものが顔の部分に貼り込まれている。この偶像をモチーフとして、西荻の街中で撮影された映像や、風景と合成させた写真や、鮮やかな色彩で描かれたイラストも壁に数点展示された。これらの作品を通じて、架空の偶像を日常に潜ませようとする試みを行い、アジアな雰囲気店内に馴染む展示となった。

### 苦肉 | Niganiku

1985年熊本県生まれ。2009年武蔵野美術大学映像学科卒業。立体、平面、映像、インスタレーションなどジャンルを問わず制作。おもちゃや日常に在るものを使った映像、作品のメモ、落書き、覚え書きなどを使い日常からアートを引っ張りだし、アートを日常にとけ込ませていくなどの試みをしている。  
niganiku.info

### MAP ⑨ハンサム食堂

駅近くの居酒屋通りに位置するハンサム食堂。年に1度は料理研究のためにタイへ研修に行くというだけあり、料理も店内の雰囲気もタイそのもの。平日休日を問わず、閉店間際までこの通りを賑わせている。

杉並区西荻南 3-11-5  
営業時間:火~金 18:00-25:00 | 土 17:00-25:00 | 日 17:00-24:00 | 月・第3日曜 定休  
xxxhandsome.com





## 《 偶然の偶像 》

2013 10min  
テレビモニター上映(映像)、ミクストメディア

## 苦肉 × David&Jonathan

Tシャツと雑貨を扱う店舗内で映像と平面作品を展示。ガラス越しに展示された『偶然の偶像』は店舗の外から見るのできる映像作品だ。ハンサム食堂で展示された奇妙でありながらもどこか可愛らしさや愛着を感じさせるカラフルな謎の立体とともに、西荻窪の様々な場所を練り歩く映像が映し出されている。また店内にはその偶像を象徴化したイラスト作品も数点展示された。「偶然」の「偶像」が持つ奇妙なポップさが店舗のポップさと上手く調和し、新たな空間が作り出されている。

### 苦肉 | Niganiku

1985年熊本県生まれ。2009年武蔵野美術大学映像学科卒業。立体、平面、映像、インスタレーションなどジャンルを問わず制作。おもちゃや日常に在るものを使った映像、作品のメモ、落書き、覚え書きなどを使い日常からアートを引き張りだし、アートを日常にとけ込ませていくなどの試みをしている。  
niganiku.info

### MAP David&Jonathan

2012年7月にオープンしたオリジナルの洋服を扱う洋服店。店内奥の工房で、手作業で1枚1枚シルクスクリーン印刷をしたTシャツを展開している。アクセサリーやバッグ、陶器、雑貨等のセレクトアイテムの販売も行っている。

杉並区西荻南3-18-3  
営業時間: 11:00-20:00 | 月・火 定休 www.d-and-j.jp





### 《 エリア431 》

2013 ミクストメディア

## 福井拓洋 × Fuji Cleaning

店舗2階半分と鉄骨の螺旋階段を含む吹き抜け空間全体に「何かを行うための装置」をテーマにしたインスタレーション作品を設置した。階段出口対角線上に、合板製お椀型の立体の内側を緑色のビー玉で敷き詰めた立体を設置。そこから麵棒状に削った棒を二列、南東側窓に向かい等間隔で垂直に2mほど立ち並べた。前方からは南西側窓へ井桁状木組みが地面と平行に伸びる。吹き抜け中心部には木製構造にステンレス板が貼付されたカプセル型物体が位置する。それらを彩色した木材でレール状に繋ぐ。店舗は商店街と脇道に面し、作品はガラス窓越しに通行者からも目に入る。鑑賞者は自由に作品の用途に考えを巡らすことができる。

### 福井拓洋 | Takuhiro Fukui

1986年静岡県育ち。2012年多摩美術大学院美術研究科彫刻専攻修了。既に用途が決まっているもの・ことが溢れる中で、あえて用途を定めずに「何かを行うための装置」となる彫刻作品を制作。鑑賞者に「装置」から「用途」を想像させ、新たな世界の側面を見せようとしている。 [fukui-t.net](http://fukui-t.net)

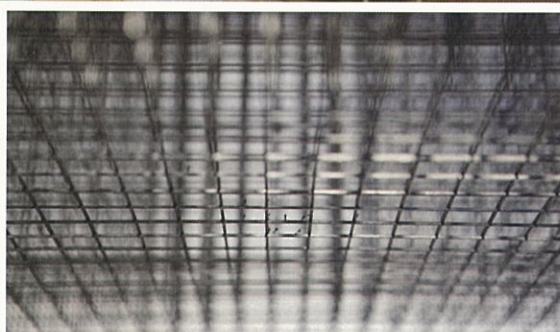
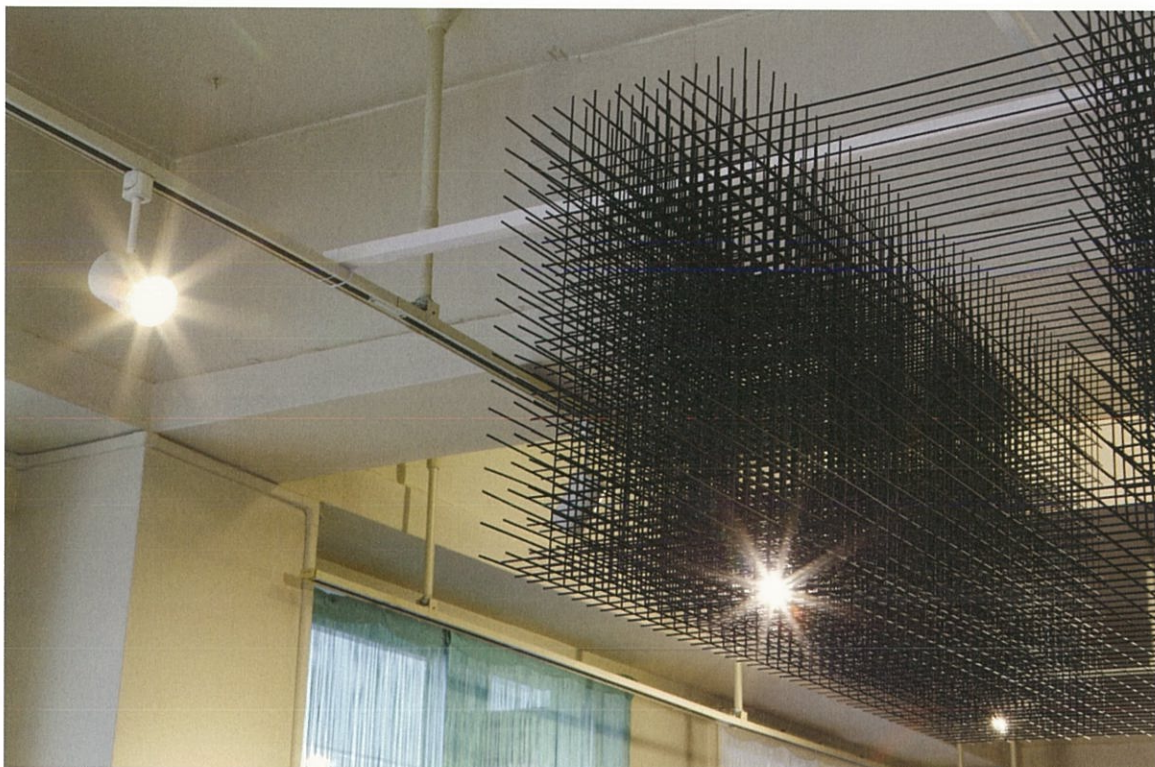
#### MAP ① Fuji Cleaning

西荻窪北口から徒歩5分、伏見通り沿いに位置するクリーニング店。広々とした店内で、2階には、一人暮らしの方・部屋に洋服を収納するスペースがない方を対象に、仕上がった洗濯物を預けられる保管ロッカーを店舗2階に多数備えている。

杉並区西荻北4-3-1

営業時間：平日8:00-20:00 土日祝 10:00-19:00 | 木 定休 pro929.com





### 《ビルディング》

2013 木、アクリル

## 福井拓洋 × Chill Mie Cafe

穏やかな時間が流れるカフェの一部に浮かぶ漆黒の立体作品『ビルディング』。1mmほどの角棒を格子状に組み、それを何層にも重ねることによって立体的空間を作り上げている。幾重にも続く角棒の層は、見る位置によって力強い直線のようにもぼんやりと浮かぶホログラムのようにも見える。規則的に組み立てられた幾何学的な作品を注意深く見つめると、その構造のなかで2mm程度の人を発見できる。その瞬間、ぐっと作品と見るものの距離が近づく。カフェと作品に流れる時間が並立して存在する空間となった。

### 福井拓洋 | Takuhiro Fukui

1986年静岡県育ち。2012年多摩美術大学美術研究科彫刻専攻修了。既に用途が決まっているものが溢れる中で、あえて用途を定めずに「何かを行うための装置」となる彫刻作品を制作。鑑賞者に「装置」から「用途」を想像させ、新たな世界の側面を見せようとしている。 fukui-t.net

### MAP Chill Mie Cafe

西荻窪駅から徒歩7分ほどのカフェ。うどん専門店を経験を積んだオーナーのつくるうどんやご飯もの、お惣菜がついてくるプレートセットが定番メニュー。スイーツメニューも豊富。店内はゆったりと寛げる隠れ家的な雰囲気、女性ひとりで訪れるお客さんも多い。

杉並区西荻北3-41-11 若葉マンション101  
営業時間:11:30-23:00 (L.O.22:30) | 火 定休





### 《 帰郷を待つ光 》

2013 鏡・銅・鉄・電動機・映像

展示時間：OLUOLU MAHANAの営業終了後、金～水 3:00 - 15:00

## 渡辺俊介 × OLUOLU MAHANA

海の家を模した開放感あふれる店舗が、営業時間を終え落ち着きを見せたころ、3枚の鏡が付属モーターで静かに回転し始める。天井から投影された映像の光が鏡に反射し、無人の店内を灯台の光のように照らし続けるインスタレーション作品『帰郷を待つ光』である。「GPSや無線の発達に伴い、船の道標という役目を失いつつある灯台の姿に、大切な誰かの帰還を待つひとの姿や想いを重ねたかった」と渡辺は語った。自らの経験を投影した深遠な作品世界を構築してきた渡辺俊介の経歴のなかでも、今回の作品は新境地を切り開くものとなった。

### 渡辺俊介 | Shunsuke Watanabe

1986年東京都生まれ。映像作家/美術家。日常の様々な要素や身体などを、映像と音を用いて訪ぐ事で、誰しもの感情に潜む心象風景を見させてくれる。  
shunsukewatanabe.org

### MAP OLUOLU MAHANA

西荻窪南口から徒歩1分、居酒屋が集まる通りに位置する。「海の家」をテーマに気軽に美味しいものを安く食べれるというのがコンセプト。外にテラス席があり、とても開放的な雰囲気海鮮料理の居酒屋。

杉並区西荻南3-12-1 日伸西荻プラザA8-1  
営業時間：平日18:00-翌3:00 土日祝 16:00-翌3:00 | 木 定休  
ameblo.jp/oluolu-mahana



## 関連イベント

# プレゼンテーション会

日時：7月27日(土)、28日(日) 11:30-17:00

会場：マチコト研究所 杉並区西荻北3-25-1 七宝ビル

参加者：26組(27名)

今回の「TEMPO de ART」では、まちで展開するアートの可能性を探るため、作品ジャンルを問わず30歳以下のアーティストを公募しました。その中から実際に作品を展示するアーティストを10人選出するため、26組の応募者によるプレゼンテーションの機会を7月27日(土)、28日(日)の2日間設けました。

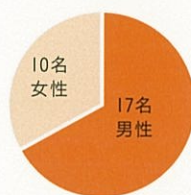
応募者がこれまでの作品を提示してその制作意図を発表し、他のアーティストから質問が投げかけられました。その後、アーティストとTERAKKOそれぞれが1人10票を投じ、上位10名が出展者に選ばれました。審査員から一方的に評価が下される、一般的な公募展とは異なり、同年代のアーティスト同士が絵画、パフォーマンス、映像、彫刻などのジャンルを越えて、表現活動について意見交換する場となりました。



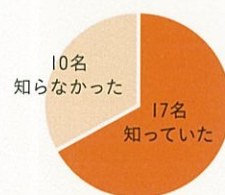
## 参加アーティストのアンケート結果

プレゼンテーション会に参加した、26組(27名)のアーティストにアンケートを実施しました。

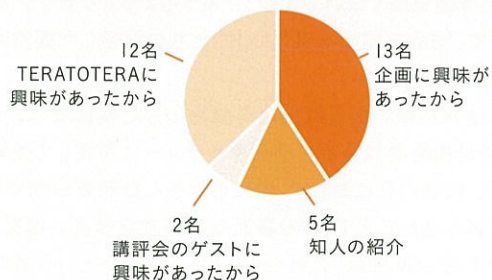
### 性別



### 以前からTERATOTERAはご存知でしたか。



### 本プレゼン会に参加いただいたきっかけを教えてください。



### 感想・意見

- ・様々な活動を一挙に見れてとても面白かった。
- ・プレゼンを公開し、まちや店の人たちにも見てもらえれば、私たちが何をしたいのか、何をしているのかにも踏み込んでもらえるのでは。
- ・同じ世代の作家の話聞くのはとても面白かった。もっと参加したいし、毎日でもやりたい。
- ・プレゼン会だけでも作品を発表する以上の価値があるようになればいいと思った。
- ・接点のない作家を知ることができて良かった。
- ・ジャンルが多様な中でのプレゼンテーションの難しさを感じた。自分の土俵を見極める良い機会になった。
- ・制作はひとりで行っていることなので、様々な方の作品を見ることができて楽しかった。

## 関連イベント 公開講評会

現代アートの専門家である現役の美術館学芸員とギャラリストを招き、展示会場の店舗すべての作品を見ていただきました。その後で講評会を開き、ゲストの活動を紹介していただくとともに、参加アーティストの作品や企画についての講評会を開きました。若手アーティストと運営側の双方にとって、直接意見をうかがえる貴重な機会となりました。

### 公開講評会①

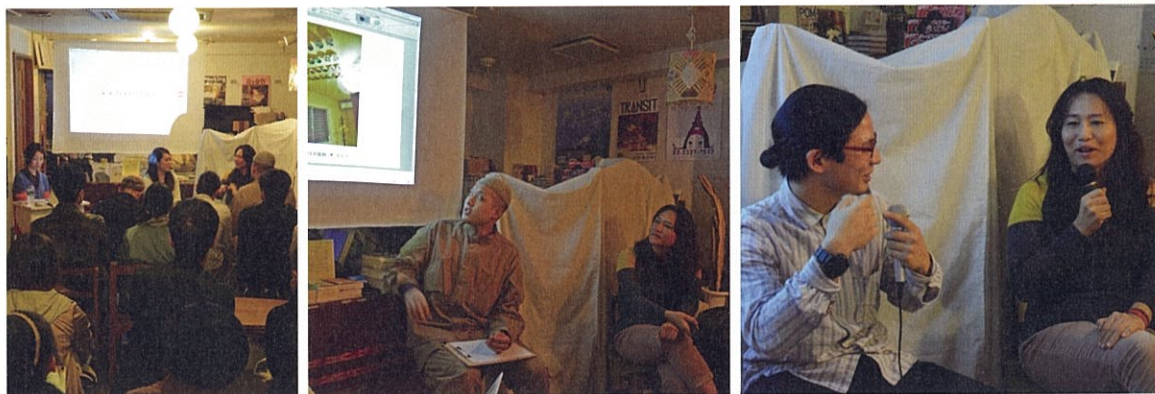
日時：10月26日(土) 19:00-21:00

入場料：無料

ゲスト：高橋瑞木(水戸芸術館現代美術センター主任学芸員)

会場：旅の本屋のまど 杉並区西荻北3-12-10司ビル1F

来場者：18名



「ちょっと雰囲気硬くないですか!?もうちょっとリラックスしてください!」ゲストの水戸芸術館学芸員の高橋瑞木さんの一声で、司会を務めるTERAKKOたちの緊張した面持ちが笑顔に変わり、和やかなムードで第1回公開講評会がスタートしました。

高橋さんは水戸駅にある飲食店を舞台にした展覧会「コーヒー&アート」など、街なかでのアート展示に取り組んでいます。その理由を尋ねると、「有名ギャラリーに所属して美術館に展示されてコレクションになるという“王道”を想定しがちな若い作家たちに対して、他にもいろんな発表形態や可能性があることを提示したい。また、作品を美術館から日常空間に持ち込むことで、より身近な関係性を作品と鑑賞者の間で結べるのではないかと語っていただきました。

若手作家を選ぶ基準は「これからもアーティストという道を選ぶ覚悟がある人」という言葉に、会場にいた作家たちの身が引き締まるのが感じられました。講評会では、「店の雰囲気込みだから作品だけを講評するのが難しい」としながらも、作家ひとりひとりにインタビューしつつ作品を読み解いていきました。また、企画全体の総論として「協力してくれるお店にオリジナリティがあり魅力的だから、その場の力と拮抗していくには『この店で絶対やりたい』という強いモチベーションが作家に必要」との言葉をいただきました。

### 高橋瑞木 | Mizuki Takahashi

森美術館開館準備室を経て、現在水戸芸術館現代美術センター主任学芸員。近年担当した主な展覧会に、「Beuys in Japan ボイスがいた8日間」(2010年、水戸芸術館現代美術センター)、「クワイエット・アテンションズ 彼女からの出発」(2011年、同)、「高嶺格のクールジャパン」(2012年、同)、「タレン・アーモンド 追考」(2013年、同)。美術館外でも「複合回路:接触領域」(2010年、ギャラリーαM)、「成層圏:風景の再起動」(2011年、同)などを手がける。著書に志賀理江子、山川冬樹、高嶺格、遠藤一郎らのインタビュー本『しぶんを切りひらくアート』(フィルムアート社、2010年)。



## 公開講評会②

日時：11月3日(日) 19:00-21:00

入場料：無料

ゲスト：浦野むつみ (ARATANIURANO代表)、藤城里香 (無人島プロダクション代表)

会場：STORE 杉並区西荻北5-7-19

来場者：18名



第2回の公開講評会には、ギャラリー運営、海外のアートフェア参加などでご活躍されているARATANIURANO代表の浦野むつみさん、無人島プロダクション代表の藤城里香さんを招きました。

お二人の活動紹介の中では、Chim↑Pomや西野達らの展覧会の制作秘話が飛び出しました。展示スペースの壁を壊したいという大胆な要望でもOKしたり、一枚の写真を撮るために撮影現場でクレーン車を手配したりと、作家の表現したい思いに献身的に寄り添うお二人の姿勢が印象的でした。

作品の講評では、作品の見せ方にもっとサービス精神が必要だということや、鑑賞者に対する作家からの説明の仕方の重要性などについて、ご意見をいただきました。

企画全体の感想としてお二人とも共通して挙げられたのは、表現が制限される店舗という空間でアートを展開することの難しさでした。藤城さんからは作家のステートメントや過去資料が見られるような拠点の必要性を、浦野さんからは参加作家の選定方法についてアドバイスをいただきました。

### 浦野むつみ | Mutsumi Urano

大学在学中よりSCAI THE BATHHOUSEに約10年間勤務。2007年に独立し、荒谷智子と新富町にギャラリーをオープン。2012年に港区白金の現スペースに移転し、ソロ活動を始める。浅井裕介、岩崎貴宏、泉啓司、衣川明子、小西真奈、小西紀行、西野達、大木裕之、高嶺格、梅津庸一、渡辺豪、横山裕一など、特異な表現で注目を集める作家のマネジメント及び国内外のプロモーションに力を注いでいる。

### 藤城里香 | Rika Fujiki

2005年までの約11年間、ミヅマアートギャラリー勤務。2006年に独立し無人島プロダクションを設立。2010年に高円寺から清澄白河に移転。八谷和彦、八木良太、Chim↑Pom、風間サチコ、臼井良平、朝海陽子、田口行弘、松田修、加藤翼といった、社会や歴史を独自の視点で切り取った表現活動を展開する作家たちの活動を世界に向けて発信中。DVDやTシャツといったオリジナルプロダクトの制作や書籍の企画・編集なども行っている。

## 関連イベント

### ガイドツアー

日時：11月10日(日)、11月16日(土) 17:00 - 21:00

参加料：無料

参加者：5名

イベント会期中の2日間、会場となる全ての店舗をTERAKKOが案内するというガイドツアーを実施しました。行ったことのないお店に、ひとりで入るには勇気がいるという方や、アートイベントに興味があり関わるきっかけを探していた方などが参加し、西荻窪についてやTERATOTERAについて知っていただく機会となりました。

## 考察

# 継続すること — TEMPO de ARTの2年目

TEMPO de ARTは2012年に初回が開催され、今年2013年で2回目となった。共にアートプロジェクトTERATOTERAの一企画として実施されたものであるが、今回の特徴として、企画発案から運営までボランティアスタッフ(=テラッコ)が主導し進められたという事が挙げられる。

2012年のTERATOTERA祭りのメインテーマは、チーフディレクターの小川希によって「NEO公共」と提案された。このテーマには、テラッコが自主的に活動することも一つの意図として含まれており、様々な壁に直面しながらもTEMPO de ARTの第1回「西荻映像祭」が無事開催された。会期終了後、店舗やアーティストから「来年も続けるのか」という声が聞こえるようになり、テラッコ自身も反省点や課題を抱えた事で、「もう一度来年開催したい」という思いが生まれた。そして開催されたのが今回の「TEMPO de ART 2013」である。2年連続の実施で新たにみえてきたものは何か、また、継続していくという事はどういう事なのか、昨年の流れもふまえ考察を進めたい。

### (1) 第1回の開催「西荻映像祭—TEMPO de ART —」

第1回の西荻映像祭は、TERATOTERAの定例会で2012年度の企画アイデアを話し合う中で、「既に独自のカラーを持つ場所にアートを持ち込んだら、どんな化学反応が起こるか試したい」というテラッコの意図により基盤が出来上がった。企画は「西荻窪の店舗で作品を展示する」、「映像作品に限定する」という2本柱を軸に進められた。作品のジャンルを「映像」に絞った理由は、映像という形式に以下の2つの特徴を仮定したからである。

- ① 様々な媒体で展示できる可能性があり、店舗の空間性に柔軟に対応できること。
- ② 時間性を有するため、普段店舗に立ち寄る顧客の足を通常と違う流れで止めることができること。

この仮定をふまえ、ディレクターと相談しながらアーティストをテラッコで選定し、8組に依頼した。また開催する店舗は、テラッコが西荻窪の地域を歩き企画書を持ち込んで、直接交渉を行なった。初回の開催での一番の困難は、この開催店舗との交渉であった。今まで何も実績がない中で、既に街に根付いている店舗に新しい企画を提案する事は予想以上の難関であった。しかし、何度も通ううちに、1店舗決まり、次第にそこからは数店舗着々と決定した。商売を生業としている店舗にボランティアで行なう企画を依頼するという事に矛盾がないとはいえませんが、この状況こそ信頼関係が重要になるという事を強く感じた1年目となった。また、前述の仮定については、映像作品の特性上、空間の明暗は影響が大きく、再度ジャンルは検討する必要があるという課題もみえた。

### (2) 第2回の開催「TEMPO de ART 2013」

第1回の開催の結果、8つの店舗と関係を構築でき、西荻窪という街で本企画が根付くための第1歩が踏み出された。そして反省点や問題点をふまえ、テラッコ自身に「こうしたい」「もっとこうすれば」という意欲も芽生え始めた。この意欲により、第2回の開催に向けての流れは自然と動きだした。企画をもう一度見直す中で、主に2点変更を試みた。

- ① アーティスト選定は、公募で決定する。
- ② ジャンルを限定しない。

①、②ともに、テラッコ自身ももっと様々なアーティストと出会い、本企画の可能性を広げたいという思いによるものだ。公募は応募者が全員プレゼンテーションをする機会を7月に2日間設け、応募者による互選で10組を決定した。このプレゼンテーションの機会は、テラッコにとって貴重な勉強となり、アーティストにとっても新たな繋がりを作る機会となった。プレゼンテーション会を機に、企画が一気に具体化し、関係者の本企画へのモチベーションも上がったととらえられるだろう。

そして、今年度の店舗の交渉は、昨年とはまた異なるものとなった。第1回から引き続き依頼した数店舗に新しい店舗が加わり、昨年より合計2店舗多い13店舗での開催となった。新しい店舗には、昨年の実績を提示する事で比較的にスムーズに依頼を進められた。また、クリーニング店など、より日常的に利用される店舗での開催も実現した。



しかし今年度は、店舗数・アーティスト数がともに増えたという事実に対し、テラッコの活動負担がどのように変わってくるのか、という点を自らがあまり認識していなかったことが浮き彫りとなった。ただ規模が大きくなれば良いと考えるのではなく、「企画が充実する」とはどういう事なのかを考え、それに伴う役割分担の再検討というところまで、企画を進めて行く過程で柔軟に対応する必要があったと感じた。

### (3) 今後の継続に向けて

第2回の開催では、メディアに取り上げられる機会も増加し、少しずつ知名度が上がっていることを体感した。しかし、メディアを通して広域的に発信はできたが、西荻窪地域にどれだけ発信できたかという部分は未だ課題である。しかしながら2年連続の開催を通じて、西荻窪地域で今までにない流れ、関係性を構築できているという事は明らかであるだろう。感想として「来年も楽しみにしている」といった声は増えたようにも感じられる。今後は、規模を拡大することを目指すよりも、店舗(店主)やアーティストとの関係性にじっくりと向き合い、企画段階から2者と共に進めていくことに目を向けていきたい。その取り組みによって、ただ「店舗という場所で開催する展覧会」ではなく独自性と深みが増し、継続していなければ生まれぬ企画も可能なのではないかと思う。

TERAKKO 吉田絵美

## おわりに

「TEMPO de ART 2013」を改めて振り返ってみると、本当にあっという間の4か月でした。真夏の屋下がりに行われた若手アーティストによる熱いプレゼンテーション会。そこから互選によって参加が決まった作家とともにTERAKKOは、打合わせや店舗へのプレゼン、チラシ配布のどのために何度も西荻窪に赴きました。街行く人の装いが半袖から長袖に変わり、飲み屋での注文がキンキンに冷えたビールからあったか〜いお湯割りに変わる頃、作家・店舗・TERAKKOが一丸となって作り上げた展覧会が開幕しました。ゲストを招いての公開講評会やガイドツアー、ライブイベントなどが毎週あちこちの店舗で催され、その度に行われた打ち上げではお互いを労ったりアート談義に花を咲かせたりと、賑やかに会期は過ぎていきました。搬出後、作品が無くなり広くなったスペースを見たとき、無性に寂しくなっていました。原状回復した店舗は、私たちの中で、もう作品を展示する前の店舗とは違っていたのです。

作家のチャレンジングな取り組みは、時にさりげなく、時に大胆に、時にあざやかに、時にノスタルジックに、様々な風景を切り取って見せてくれました。西荻窪のまちを訪れる人たちに対して、いつもと違う“TEMPO”によって何か心に響くものが残せたならば、事務局としてこれほど嬉しいことはありません。

この企画を寛大な心で受け入れ、時にはご指導やご助言をくださり、アートを街なかに潜ませる協力者となってくださった参加店舗の皆様と、温かなご理解で支えてくださった西荻に住む皆様には深い感謝の念でいっぱいです。その他の多くの関係者の皆様のご尽力と、企画・運営のすべてを担ったTERAKKOの奮闘によって、このイベントを無事開催することが出来ました。この場を借りて皆様に御礼申し上げます。

また、この展覧会を進めていくうえで、企画から運営まで私たちに任せてくださり、少し離れたところから見守り、導き、困った時には必ず手を差し伸べてくださったTERATOTERAチーフディレクター小川希さん、ディレクター國時誠さん、事務局長小澤恭子さんの存在なくしては、この展覧会の実現は成し得ませんでした。心から感謝するとともに、今回の経験を糧に成長していくことをここに誓いたいと思います。

この記録冊子が、今後のアーティストのキャリアに少しでも役に立ち、本展覧会で取り組んだアートの在り方を広く伝えていけるものになることを心から願っております。

TERAKKO 宮久美那

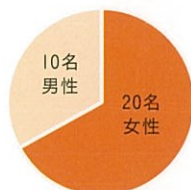


# アンケート結果・掲載情報

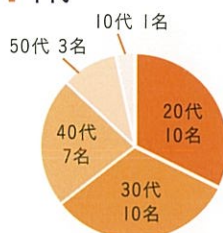
## 来場者へのアンケート結果

ご来場いただいた方30名にアンケートを実施しました。

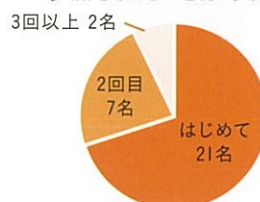
### 性別



### 年代



### TERATOTERAのイベント参加されたことはありますか。



### 感想・意見

- ・西荻窪の街をゆっくり歩く機会がそう言えばなかったので、街の魅力を知る機会になった。(30代・男性)
- ・それぞれ個性のある展示で、店をまわるのが楽しかった。別の世界にきたような感覚になった。(20代・女性)
- ・福井さんの作品がかっこ良かった!店舗のご協力もすごい!よくぞここまでと感心しました。(20代・女性)
- ・お店に作品を置くことで、いつもとは違う雰囲気になって新鮮だった。説明がないと少し分かりづらいところもあった。(20代・女性)
- ・TERATOTERAとの関係など、企画のしきりがHPを見た感想としては少し分かりづらかった。(50代・男性)
- ・普段見ることのないアートがたくさんあり楽しかった。(10代・男性)
- ・若い芸術的な感性に触れられて刺激になった。(50代・女性)
- ・アートが日常に溶け込み、アートに触れる良い機会になった。(30代・女性)

## メディア情報

### テレビ

- NHKワールド放送「TOKYO EYE」番組内  
トピックス「New angles on art」内  
「Tokyo Creative Weeks event in Nishiogikubo: Teratotera」  
12月17日(火) 15:00-15:30

### ラジオ

- J-WAVE「RADIO DONUTS」内  
「BUN-PRO TOKYO CREATIVE FILE」  
10月19日(土) 11:35-11:45
- J-WAVE「TOKYO-GRAPH」  
10月20日(日) 11:40-

### Web

#### 公募情報

- Tokyo Art Navigation
- Smart Contest
- Art inn

#### 展覧会情報

- CINRA.NET 9月26日(日)
- 吉祥寺経済新聞 10月4日(金)
- Yahooニュース 10月9日(水)
- 街の情報ポータル&WEBマガジン「オギジン」 10月14日
- 音縁 10月20日(日)
- リビングむさしの 11月7日(木)

TERATOTERA祭り@西荻窪 TEMPO de ART2013 Document  
2013年10月17日(日)ー11月20日(日)

**編集**

西岡一正 高村瑞世 宮久実那 吉田絵美

**デザイン**

高村瑞世

**写真**

Hako Hosokawa テラッコ

**協力**

関川航平 三品輝起 テラッコ一同

**発行**

公益財団法人東京都歴史文化財団 東京文化発信プロジェクト室  
〒130-0026 東京都墨田区両国3-19-5 シュタム両国5階  
tel:03-5638-8800  
fax:03-5638-8811

**お問合せ先**

一般社団法人Ongoing  
〒180-0002 東京都武蔵野市吉祥寺東町1-8-7  
tel,fax:0422-26-8454  
email:info@teratoterajp  
teratoterajp